

機能食品通信

第5号

発行 (株)機能食品研究所

今回のテーマ

・映画「アバター」を観てきました。映画の内容とは関係ありませんが、大学時代の師匠を思い出しました。

・ITの痒みの数値化への道(その3)

・梅田って何者? (水泳編)

・被験者への説明資料の「こだわり」

機能食品研究所 梅田です。

皆様から「私もお金のしくみDSに興味が出ましたので買おうと思

います。」「被験者募集のこだわり、同感です。」「というご声援をいただ

きました。とても嬉しいです。

5号です。



■映画「アバター」を観てきました。映画の内容とは関係有りませんが、大学時代の師匠を思い出しました。

昨年末、タイタニックの監督の「アバター」を観てきました。

近所に3D(立体映像)対応の映画館が無いので2D(普通の画面)で観ました。映画館に着いて上映が始まるまでの間「3Dの映画館に行くべきだったかな?」「何度



も思いましたが・・・

すこかったですよ

すこく楽しかったですよ

すこく面白かったですよ

映画の世界の中にグイグイと引きずり込まれました。

3Dじゃなくても、迫力満点でした。

大満足の気持ちで映画館を出るとき、懐かしい思い出がよみがえりました。

あれは10年前、奈良県は生駒周辺に有る近畿大学農学部の大学生だった真夏のある日です。太陽がガンガン照りつける灼熱の中での農場作業を終え、汗をかきすぎて痒くなった肌をポリポリ掻きながら、クーラーが程よく効いた研究室に戻りました。

直属の教官であるネルソン先生に「先生、ただいま戻りました。」「と報告をしに行った時、先生は私が作ったUMEDAYAというホームページをご覧になっていました。

カクカクと動く画像やイラストを多用して飾り立て、ページ構成は一貫性が無く増築に増築を重ねた迷宮のような私のホームページ。

恥ずかしながら umedayaya.com まで取得した暗黒の歴史。

先生はパソコンの画面に表示された文字だけの画面を指さされ「梅田くん、インターネットは様々なコンピュータが繋がれて居るんですよ。

このようにHTMLの文字のみで閲覧する方だっ居ますし、そうで無かったとしても画面の大きさだって様々です。つまり、相手の認識する環境・条件は様々だから、どの場合でも最適に伝えられる事を念頭に置くべきなのです。」とアドバイスをくれたさりました。

そして、そのアドバイスに沿ってシンプルな構成にしたところ、あくセス数や掲示板への感想書き込みが急に増えたのを覚えております。

それから10年経った今、アバターを作った監督は3Dシアターでもお茶の間のTVでも楽しめるように作られたのだなと想像しながら、大学時代の恩師の姿がよみがえったのでした。

■「ITの痒みの数値化への道」(その3)

前身までのあらすじ】6年前のある日、三重大学大学院 医学部皮膚

科の学生だった梅田は、マウスの掻破行動(掻く行動)を音で判別する事が可能かの検討実験を担当させていただける事になったのです。【

開発が始まって数日後の事、このプロジェクトの工学分野の陣頭指揮をとっていたいただいている野呂准教授との打合せの為に、先生の実験室に伺った時の話です。

野呂先生から「梅田くん。この前買った【掻いていない時】という題名のビデオだけど、マウスが動いていないのに掻いてるらしき音が出ているよ。このヘッドホンで聞いてもらえ。」と言われ、手渡されたヘッドホンで聞いてみると確かにカリカリという掻いているような音が聴こえます。

野呂先生の予想では、「これは上からの撮影であるため、前肢で口の下の掻いているのが死角で映っていないのではとの事。

色々なアングルから撮った動画を観察された時に、そういう動きがあったため「これが答えでは」と気付かれたそうです。

このとき私は「すごい、私も気付きの能力を伸ばしたいー!」と、心の底から思いました。しかし、どうすればその「気付きの能力」が伸びる

の名字(フルネーム不明)の選手を探したのですが、情報不足で真偽の程は定かではありませんでした。

ただ、私にとって偉大な方であった事は変わりありません。

■被験者への説明資料の「こだわり」

仕様書(試験デザイン)作成 ↓ 試験計画書作成 ↓ 倫理委員会申請
書作成 ↓ 被験者選出 の行程通りの順番で説明させていただきました
「こだわりのシリーズ」ですが、今回は【被験者への説明資料】について
です。

被験者さんを集める時や、被験者さんに試験方法を説明する時に、試験内容をしっかりとお伝えせねばなりません。その細かい技術は、専門スタッフが日夜改良してくれているので、既に私の想像を遙かに超えた洗練された世界に突入しております。ただし、基本理念はスタッフ一同が共通なのです。

その発端は、14年前に宮地佑紀生(みやちゆきお)さんという名古屋で有名なタレントさんのラジオでの作の話です。

「お医者さん」などで朝ご飯を食べてきちゃったのっ」

患者さん 「パンなら良いと思って・・・」

この作り話を聞いた瞬間は笑い転げました。

しかし、その直後に私は冷静に「これは作り話だから笑えるけど、現実では様々な方法で意思疎通のトラブルを回避しているんだな。私も将来そういうトラブルを起こさないよう、今のうちから意思疎通には気を付ける習慣にしよう。」と思ったのです。

たとえば弊社の仕事に置き換えるならば、採血の有る試験の説明は【朝ご飯をお控えください】ではなく【前日22時以降の水分・食べ物・タバコをお控えください】と明確にするべきなのです。

これらの事から私が常日頃から思っているのは、物事は正確に伝えねばならないという事です。略称や常用されていない言葉は、悪気の無い行き違いを生むという事です。それは不幸が生じるだけなのでNGなのです。

回覧・印					

差し支えが無ければ回覧いただけると幸いです。

最後のページまでお読みいただき、ありがとうございました。